

第5回広陵町地域公共交通活性化協議会 議事要旨

日 時：平成26年7月16日（水）14：00～15：30

場 所：広陵町役場3階大会議室

出席者：山村会長、青木委員、巽委員、東委員、山本委員（代理：伊藤様）、村上委員（代理：白柳様）、大庭委員、大西委員（代理：布田様）、森本委員（代理：河野様）、川邊委員（代理：八伏様）、吾妻委員、吉崎委員、島田委員、古田委員、奥谷委員

欠席者：西本委員

1 開会進行（事務局）

2 新任委員の紹介

3 会長あいさつ

協議会参集及び新規委員の就任に対する謝辞。

今年の3月に第4回協議会を開催し、現在試行運行をしている広陵元気号のありかたを含め、町の公共交通について協議を行った。今回は、公共交通をこれからの広陵町に合ったものとするためにアンケートを実施するので、その内容について議論していただく。また、奈良交通の維持改善についてもご意見をいただくので、よろしくお願いしたい。

4 議題

（1）広陵町地域公共交通活性化協議会規約の改正について

【事務局説明】

- ・規約の改正について全員一致で承認
- ・吉崎委員が参加、新しい委員名簿を配布

（2）広陵町生活交通ネットワーク計画の策定に向けた調査業務の実施体制（プロポーザル結果概要）について

【事務局説明】

ランドブレイン株式会社大阪事務所を委託業者として特定

（3）アンケート調査の実施概要について

【事務局説明】

【質疑応答】

○委員

国土交通省は、タクシーのような高齢者の移動の仕組みをつくることが重要だとしている。今後、タクシーが重要な位置づけになってくるので、これからの公共交通について尋ねるアンケートであるなら、タクシーに関する項目も入れることを検討してほしい。タクシーの利用補助をしていて、それが有効に働いている自治体もある。そういったことも視野に入れてほしい。

○事務局

タクシーについての設問を入れることを検討したいと思う。ちなみに、福祉タクシーについては町からも補助をしている。

○委員

利用者アンケートの調査対象は1日約60名を想定しているが、調査の実施期間はどのくらいか。平日と土休日で利用者数は違うと思うが、いくつかの日を抽出して行うのか。

○事務局

2週間程度の期間、配布する予定。

○委員

元気号の料金の有料化についての設問が、町民アンケートにも利用者アンケートにも入っている。どれくらいの運賃なら良いかという、具体的な金額を示した設問は必要ないだろうか。

○事務局

いくつかアンケート調査を行った事例をみても、当然ながら安い金額が良いという回答が多くなるため、設問に入れなかった。再度検討したいと思う。

○委員

平成25年は町民一人当たり531円の負担である。仮に運賃が200円で、全町民に年3回乗ってもらえれば、単純計算して採算が合うことになる。せっかく町民一人当たりの負担金額を示しているのだから、そのような啓発もできるのでは。

○事務局

元気号の負担も大きくなっている。公平さを保つためには、運賃の負担が必要ではないかということを示し、理解をしていただいた上で、有料化に向けて検討していきたい。

○会長

デマンド交通を導入する場合、運賃についても本協議会で決めることになる。デマンド交通の運賃はどのくらいだと想定できるのか、定時定路線型と併せて議論していただきたい。

○委員

田原本町では有料のデマンド型乗合タクシーが運行しているが、そのような近隣の事例も参考にして検討したい。距離によって料金が違うのか、それとも一律なのかも様々だと思う。

私の意見としては、元気号に乗る人は限られているので、有料化した方がいいと思う。

○事務局

香芝市の公共バスは無料。試行しているデマンド交通は大人1回 200 円、小学生が 100 円。三郷町のデマンドは1回 300～700 円で、距離によって変わってくる。

○委員

田原本町のデマンド型乗合タクシーは大人 300 円、小学生 150 円。距離に関係なく定額。

○事務局

アンケートの結果を踏まえて、有料化を検討していくことになれば、他の市町村の状況を示して検討していきたい。

○会長

デマンド交通は、利用が多くなれば財政負担が増すが、その点の課題はどうするのか。適正な料金というのが求められる。

○委員

香芝市のデマンド交通は乗り合い率が2にもっていないので、負担が大きい。乗り合い率が高まれば負担は軽減される。

○委員

デマンド交通にするとより経費が掛かることや、タクシー事業者を圧迫することなどについても、アンケートの中で示してはどうか。町民の理解を得ながら、継続的に運行していくことが重要である。

また、そもそも多くの町民に、元気号について理解していただいているのかも疑

間。1日あたり約60人が利用しているということだが、乗車密度はたいしたことがない。周知の度合いが低いのではないか。

○会長

乗車密度は区間によって相当異なる。PRは確かに足りておらず、反省点である。

○委員

デマンド交通には先行事例がたくさんあるので、問題点についても聞きとりを行い、後々の協議に反映してほしい。

○会長

意見を踏まえて、アンケートの構成を深めてほしい。

○事務局

早急に修正して郵送し、意見をいただきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

5 その他

奈良交道路線バス（高田イオンモール・高田新家線）の維持改善に向けた方策について

【事務局説明】

【質疑応答】

○会長

町民には、廃止になるというニュースのみが流れており、不安を煽っている。バスの運行は存続することをしっかりとPRしないといけない。奈良交通とともに対策を進めていく。

○委員

問い合わせについては、テレフォンセンターや、乗車券の発売窓口、営業所などで案内している。竹取公園東～忍海間が廃止になるが、広陵町の方が多く乗っている、竹取公園東～近鉄高田間は存続する。系統の廃止とバスの廃止は違うという説明を徹底し、誤解の無いように周知している。

○会長

町民からは、奈良交通に更なる経営努力をしていただきたいという声も挙がっている。

○委員

2002年の乗合バス事業の規制緩和によって、自由競争の中に身を置かれた中で、人件費などを下げる努力をずっとしてきている。

奈良県警と提携してゴールド倶楽部定期券を発行したり、小学生・中学生のための夏休み期間限定の定期券をつくったり、利用者を増やす努力をしている。うまくPRはできていないかもしれないが、そういった取組みは、休むことなく行っている。

○委員

乗合バス事業の規制緩和で経営が大変になったこともわかるが、今後町が高齢化していくにつれ、路線バスが復活する可能性もある。撤退していくことは、企業としてマイナスになるかもしれない。市町村から補助を得る必要もあるとは思いますが、法人として、更なる存続の努力をしていっていただきたい。

○委員

奈良県に中心になっていただいて協議会を組織し、維持のための負担についての協議や、これからに向けての提案などをしていただいている。利用者を増やす取組みは、十分だとは思っていないが相当取組んできたと思っている。それにも関わらず利用者は減少しているので、今後は市町村のお力を借りて、例えばタイヤアップをして増収対策をするなどの対策をしていきたい。

収入が減少したのは、王寺駅周辺の大きな団地の住民の方々が、一斉にリタイアする時期を迎えたことで、大きな収入源だった路線の利用者が減ったことや、近鉄けいはんな線ができたことが要因だと分析している。今後も皆さまのお力をいただきながら努力していきたい。

○委員

今までの奈良交通は優良企業で、恵まれた環境で働いていた乗務員の方々の態度も非常に良かった。奈良県が誇ってきた企業なので、プライドを持って事業づくりをしていっていただきたい。今が勝負のしどころだと私は思っているので、よろしくお願いしたい。

○会長

利用者を増やす努力は、町も企業もお互いにしていかなければいけない。補填もいつまでも続くわけではないので、毎年検証していきたい。

- ・ 次回は、アンケート調査の結果および課題整理の報告、生活交通ネットワーク計画の素案について協議予定
- ・ 10月頃に開催することを約して散会